

4 月 9 日は「子宮の日」

4 月 9 日は、し（4）きゅう（9）の語呂から**子宮の日**とされ、これにちなんで**子宮頸がん予防啓発デー**が制定されました。

当初は、市民団体が独自に 4 月 9 日を「子宮頸がんを予防する日、子宮の日」と提唱していましたが、啓発活動の強化により、2009 年、日本記念協会が 4 月 9 日を、**子宮頸がんを予防する日**と認定したものです。

子宮頸がんとは

子宮のがんには、子宮体がんと子宮頸がんがあります。子宮体がんは、子宮体部（子宮の奥）に出来るがんで、発症は閉経後の 50 代が多く、女性ホルモンが原因とされています。子宮頸がんは、子宮の入り口部分（頸部）に出来るがんです。発症は 30～40 代が多いのですが、20～30 代の発症例が急増しています。原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染であり、子宮体がんとは全く発症経路が異なります。

日本では、毎年、新たに約 10,000 人もの女性が子宮頸がんと診断されています。また子宮頸がんが原因で年間約 3,000 人が亡くなっており、年代別でみると 30 代後半の方が増えています。



* 参考画像：子宮がんの発症部位

<http://www.osaka-ganjin.jp/medical/examination/uterine/>

（2 月 13 日アクセス）

1. ヒトパピローマウイルス（HPV）とは？

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、とてもありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性の 80%以上が 50 歳までに感染するといわれています。高リスク型のヒトパピローマウイルスによる子宮頸部感染の場合、症状はなく、ほとんどが数年で自然治癒します。しかし、一部に感染が持続することがあり、さらに、その一部で子宮頸部にガンが発生することがあります。

ヒトパピローマウイルス(HPV)には、150 種類以上の型があります。そのうち感染が持続した場合に、がんに進捗していく可能性があるウイルスを高リスク型、感染部にイボをつくる原因となるウイルスを低リスク型に分類しています。高リスク型は、15 種類程あります。その中でも HPV16 型・HPV18 型の 2 種類が、子宮頸がんの原因となり、全体の 60～70%を占めます。子宮頸がんは、性行為で感染するので、これら高リスク型 HPV は、子宮頸がん以外に、中咽頭がん・肛門がん・膣がん・外陰がん・陰茎がんなどの発症と関連があるといわれています。したがって、この一連の疾患をヒトパピローマウイルス感染症として括られています。

2. 子宮頸がんの経緯

子宮頸がんの初期は、ほとんど症状が見られないので、早期発見には検診が重要です。進行するに従い、以下の症状が現れます。

- 生理でない時、または性行為時の（不正）出血
- 茶色いおりものの増加
- 足腰の痛み
- 血液の混じった尿

しかし、上記の症状が発現した時は、病状がかなり進行している可能性があります。少しでも気になる事がありましたら、ためらわず速やかに婦人科を受診してください。似たような症状の別の疾患もあるので、不安を抱えたままにせず専門医に診断してもらいましょう。

3. 子宮頸がんの治療、および妊娠・出産について

子宮頸がん罹患すると、妊娠・出産に影響が出る可能性があります。初期のがんであれば、妊娠出産を考慮して、子宮を残す手術を行なう場合がありますが、進行してい

る場合は、子宮、および頸部も手術で取り除く事となり、加えて周りの筋肉組織も切除するため、排尿障害やむくみなど様々な後遺症が出ます。健全な妊娠・出産のためにも予防が重要です。

子宮頸がんの予防法

子宮頸がんの予防法には、検診とワクチン接種があります。

① 検診

子宮頸がんの定期検診は、がんになる過程の異常（異形成）や早期のがん発見に繋がります。20 歳以上の女性は、2 年に 1 回の頻度で、子宮頸がん検診が推奨されています。検査方法は、一般的に、子宮頸部の細胞を採取して、細胞に何らかの異常がないか検査する**子宮頸部細胞診**があります。なお、検診の実施に関しては、各自治体で異なります。

② ワクチン接種

ワクチンは、子宮頸がんを引き起こす高リスク型 HPV のうち、16 型・18 型の感染を予防します。昨今、検診で見つかりにくい腺がんの増加がありますが、ワクチンは、腺がんにも予防効果があります。しかし、以下のようにワクチンの効果が期待できない場合があります。

* ワクチン接種の効果が期待できないもの

- ワクチンに含まれない型の HPV ウイルスに感染した場合は、がんが発症する可能性がある
- 既に HPV16 型・18 型に感染している場合は、ワクチンの効果はない
- 発症後の前がん病変に対する治療効果はない

したがって、ワクチン接種だけでは完全に予防できないので、定期的に検診を受けることが重要となります。

子宮頸がん予防ワクチンは、新しいワクチンで、子宮頸がんそのものを予防する効果は、証明されていません。しかし、持続的な HPV の感染、およびがんになる過程の異常（異形成）を予防する効果は確認されており、これらに引き続いて起こる子宮頸がん

を予防する効果が期待されています。（厚生労働省 HP：子宮頸がん予防ワクチン Q&A より）

子宮頸がんワクチンの詳細

ワクチンの接種は強制ではありません。厚生労働省によると、実際に予防接種を受ける際は、ワクチンの有効性とリスクを十分に理解した上で、受けるかどうかご判断くださいとのことがあります。

1. ワクチンの種類

サーバリックスとガーダシルの 2 種類があります。半年間に 3 回接種することにより十分な予防効果が得られるワクチンです。

表 ワクチンの種類

ワクチンの種類	サーバリックス	ガーダシル
HPV の型	HPV16 型・18 型	HPV6・11 型および 16・18 型
接種スケジュール	中学 1 年生の間に、1 ヶ月の間隔をおいて 2 回接種を行った後、1 回目の接種から 6 ヶ月の間隔をおいて 1 回の接種を行なう	中学 1 年生の間に、2 ヶ月の間隔をおいて 2 回接種を行った後、1 回目の接種から 6 ヶ月の間隔をおいて 1 回の接種を行なう

2. 接種回数

必ず同じ種類のワクチンを 3 回接種します。

3. 接種年齢

9 歳～10 歳以上の女性で、年齢の上限はありません。

4. 接種部位

腕の肩に近い外側の部分（三角筋）が選ばれるので、接種当日は、この部分を露出しやすい服装が望ましいです

5. 子宮頸がんワクチンの副反応

ワクチン接種後に、注射した部位が腫れたり痛んだりすることがあります。これは、身体の中でウイルス感染を防ぐための免疫反応です。通常は数日程度で治ります。しかし、接種開始当時、ワクチンを接種した際に、強い痛みによるショックから気を失う例が多いとして、厚生労働省から医療機関に対し注意喚起が行われ、報道でも取り上げられました。

以下、想定される原因として、

- 抗体を得られやすいよう肩付近の筋肉に 3 回接種するため、皮下注射の予防接種より痛みが強く感じられる
- ワクチンに含まれるアジュバント（免疫補助剤）である水酸化アルミニウムは、痛みを感じやすい
- 接種時期が、感受性の強い思春期であり、さらに注射への強い恐怖心と緊張が加わり、思春期の女性に起こりやすい[血管迷走神経反射による失神](#)を起こすのではないかと推測される

厚労省によると、接種後に「立っていた」「立ち上がった」「背もたれなどが無い椅子に座っていた」場合に、失神者が多発しているようです。転倒して大ケガをした例もあり、注意を喚起しています。

対策として「接種日は、体調が良く翌日もゆっくりできる日を選ぶ」「接種後、30 分～1 時間は安静にする」「かかりつけ医などリラックスして受けられる場所で接種する」などが推奨されています。

また、厚生労働省は、ワクチン接種後に見られる副反応について、接種との因果関係を問わず医療機関からの報告を収集しており、専門家に定期的に分析・評価をしてもらっています。その中には、稀に重い副反応の報告もありました。例えば、アナフィラキシー（呼吸困難・じんましんなどを症状とする重いアレルギー反応）、ギラン・バレー症候群（両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気）などです。

6. 子宮頸がんワクチンを受ける際の注意点

ワクチンを受ける際は、インフォームドコンセントを徹底します（予防接種の必要性・リスク・有用性などの説明と同意を得る事）。

また、以下のいずれかに該当する方は、特に、健康状態や体質などを担当の医師にしっかりと伝え、十分な説明を受けて下さい。

- 血小板が減少している、出血した際に止まりにくいなどの症状のある方は、接種後出血の恐れがある
- 心臓血管系疾患・腎臓疾患・肝臓疾患・血液疾患・発育障害など、基礎疾患がある方
- 予防接種で接種後 2 日以内に発熱した方
- 過去にけいれんの既往のある方
- 妊娠、または妊娠している可能性のある方は、接種を避ける方が望ましい

7. 接種後の注意点

接種当日は、接種部位を清潔に保ち、過激な運動は避けましょう。医療側は、接種後の健康状態を観察してもらう事、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、痙攣などの異常を呈した場合は、速やかに医師の診察を受けるよう、予め伝えておきます。

おわりに

子宮頸がんの予防には、定期検診が最も重要です。罹患しても初期に治療すれば、治療しやすい疾患といわれています。さらに、進行を阻止する為にも早期治療が推奨されています。

*参考

- 子宮頸がん予防情報「もっと守ろう.jp」 <http://www.shikyukeigan-yobo.jp>
- 厚生労働省 HP「子宮頸がん予防ワクチン Q&A」